PSR-UNI-S
clipx ENGINEER device parameterization
ソフトウェアによるパラメータ設定

クイックスタートガイド

本ガイドは英語版を機械翻訳したものです。
よって、英語版と内容に相違があった場合、英語版を正といたします。

クイックスタートガイド

clipx ENGINEER device parameterization ソフトウェアを使用した PSR-UNI-S のパラメータ設定

本マニュアルは以下に適用されます：

型式	HW/FW	製品番号
PSR-UNI-S-1x2NO-1DO-24DC-PI	00/100	1501632
PSR-UNI-S-1x2NO-1DO-24DC-SC	00/100	1501631
PSR-UNI-S-2x2NO-2DO-24DC-PI	00/100	1501633
PSR-UNI-S-2x2NO-2DO-24DC-SC	00/100	1501636

ソフトウェアと組み合わせて使用	バージョン	製品番号
clipx ENGINEER デバイスパラメータ設定	2.8	1371665

本書に記載されている型式はすべて、PSR-UNI-S という名称で呼ばれています。

112089_en_00

目次

1 お客様の安全のために 5
1.1 警告メモの識別 5
1.2 ユーザーの資格 5
1.3 本資料の目的 6
1.4 安全に関する注意事項 6
1.5 ネットワークセキュリティ 7

2 システム要件 8

3 ソフトウェアのインストール 8

4 ソフトウェアのユーザーインターフェースの説明 9
4.1 スタート画面 9
4.2 オンライン監視およびパラメータ設定 10
4.3 タスク実行の支援 11

5 PSR-UNI-S のパラメータ設定 12
5.1 注意事項と準備 12
5.2 PC への接続 13
5.3 デバイスのシミュレーション 14
5.4 デバイスパラメータの編集 15
5.4.1 デバイスの識別と安全設定 16
5.4.2 入力設定 17
5.4.3 ロジック設定 18
5.4.4 出力設定 20
5.5 デバイスパラメータの転送 22
5.6 プロジェクトとレポートの保存 24
5.7 パラメータの比較 25
5.8 既存のパラメータファイルの読み込み 26
5.9 パラメータ設定後のエラートラブルシューティング 26

6 PSR-UNI-S でのタスク実行の支援 27
6.1 PSR-UNI-S でのタスク実行支援 27
6.2 デバイスの復元 29
6.3 パラメータファイルを作成する 31
6.4 パラメータファイルをデバイスに転送する 33

A 改訂履歴.....34

1 安全のため

1.1 警告メモの識別

この記号は、人身事故につながる可能性のある危険を示しています。
潜在的な傷害の深刻度を示す 3 つの注意喚起語があります。

危険
リスクレベルの高い危険を示します。この危険な状況を回避しなければ、死亡または重傷を負うことになります。

警告
リスクレベルが中程度の危険を示します。この危険な状況を回避しないと、死亡または重傷につながる可能性があります。

注意
リスクレベルが低い危険を示します。この危険な状況を回避しないと、軽傷または中程度の怪我につながる可能性があります。

この記号は、「注記」という注意書きとともに、読者に対し、物的損害や故障を引き起こす可能性のある行為について警告するものです。

ここには、追加情報や詳細な情報源が記載されています。

この記号は、フエニックス・コンタクトのデバイス、ソリューション、またはサービスにおける潜在的なセキュリティリスクを示しています。これには、例えば、産業オートメーションにおける IT およびセキュリティのリスクなどが含まれます。

この記号は、指示を遵守する必要があることを示しています。ユーザーマニュアルで製品の特性を十分に理解してから、設置および操作を行ってください。

1.2 ユーザーの資格

本マニュアルに記載されている製品の使用は、以下の者に限定されます：

– 電気工事士、またはその指導を受けた者。ユーザーは、オートメーション・テクノロジの関連する安全概念、および適用される規格やその他の規制に精通している必要があります。
– 資格を有するアプリケーションプログラマーおよびソフトウェアエンジニア。ユーザーは、オートメーション・テクノロジの関連する安全概念、ならびに適用される規格およびその他の規制に精通している必要があります。

有資格者

有資格者とは、その訓練、経験、指導、および関連する規格、規定、事故防止規則、およびサービス条件に関する知識に基づき、システムの安全責任者から必要な操作を行う権限を与えられ、かつ、起こりうる危険を認識し回避することができる者を指します。

要件

以下の項目に関する知識が必要です：

– 安全コンポーネントの取り扱い

– 有効な EMC 規制

– 労働安全および事故防止に関する有効な規制

1.3 本ドキュメントの目的

本書は、clipx ENGINEER デバイスパラメータ設定ソフトウェアにおける PSR-UNI-S セーフティリレーモジュールのパラメータ設定を支援するものです。

ソフトウェアインターフェースの説明と、セーフティリレーモジュールのパラメータ設定例が記載されています。

警告：不完全な情報による誤った使用
この文書は、完全なユーザーマニュアルではありません。

- セーフティリレーモジュールの操作については、製品固有のオンラインドキュメントに従ってください。
- 必ず最新のドキュメントを使用してください。

  ドキュメントは phoenixcontact.com/products の該当ページからダウンロードできます。

1.4 ドキュメント

最新のドキュメント

常に最新のドキュメントを使用してください。変更点や追加情報はインターネットで確認できます。

phoenixcontact.com/products を参照してください。

セーフティリレーモジュールと併用するその他のすべてのデバイスに関するドキュメントも参照してください。

オンラインデータシート

PSR-UNI-S **製品のオンラインデータシート**
ドイツ語：

DB DE PSR-UNI-S-1X2NO-1DO-24DC-.., 112087
DB DE PSR-UNI-S-2X2NO-2DO-24DC-.., 112088
英語：

DB EN PSR-UNI-S-1X2NO-1DO-24DC-.., 112087
DB EN PSR-UNI-S-2X2NO-2DO-24DC-.., 112088

1.5 ネットワークセキュリティ

セキュリティ

注：不正アクセスによるネットワークセキュリティの脅威
デバイスをネットワークに接続すると、ネットワークへの不正アクセスという危険が生じます。

以下の安全上の注意事項を守ってください。

- 可能であれば、使用していない通信チャネルを無効にしてください。
- 最新のガイドラインで推奨されている複雑さと有効期間を満たす、安全なパスワードを使用してください。
- デバイスへのアクセスは、許可された者のみに限定してください。許可される人数は、必要最小限に抑えてください。
- IT セキュリティ要件およびお客様のアプリケーションに適用される規格を遵守してください。必要な保護措置を講じてください。これには、例えば、リモートメンテナンスアクセス用の仮想ネットワークやファイアウォールなどが含まれます。
- セキュリティが極めて重要なアプリケーションでは、常に追加のセキュリティアプライアンスとともに本デバイスを使用してください。
  フエニックス・コンタクトは、mGuard 製品群でセキュリティアプライアンスを提供しています。mGuard ルーターは、リモートメンテナンスやローカルネットワークの保護のためにさまざまなネットワークを接続し、これらのネットワークをサイバー攻撃から保護します。
- ネットワークを計画する際には、多層防御戦略を考慮する必要があります。

不正なネットワークアクセスから保護するための追加対策については、アプリケーションノート「INDUSTRIAL SECURITY」をご覧ください。このアプリケーションノートは、item（phoenixcontact.com/products）からダウンロードできます。
ドイツ語：AH DE INDUSTRIAL SECURITY, 107913
英語：AH EN INDUSTRIAL SECURITY, 107913

フエニックス・コンタクトの製品、ソリューション、またはサービスにセキュリティ上の脆弱性が存在する場合、PSIRT（Product Security Incident Response Team）のウェブサイト（phoenixcontact.com/psirt）で公開されます。

2 システム要件

clipx ENGINEER device parameterization ソフトウェアのシステム要件については、phoenixcontact.com/product/1371665 の製品ページをご覧ください。

3 ソフトウェアのインストール

clipx ENGINEER device parameterization ソフトウェアは、使用する PSR-UNI-S デバイスのダウンロードエリア、または phoenixcontact.com/product/1371665 からダウンロードできます。

必ず最新のソフトウェアバージョンを使用してください。

セーフティリレーモジュールを PC に接続する前に、セーフティリレーモジュール用の適切なドライバを含むパラメータ設定ソフトウェアをインストールする必要があります。

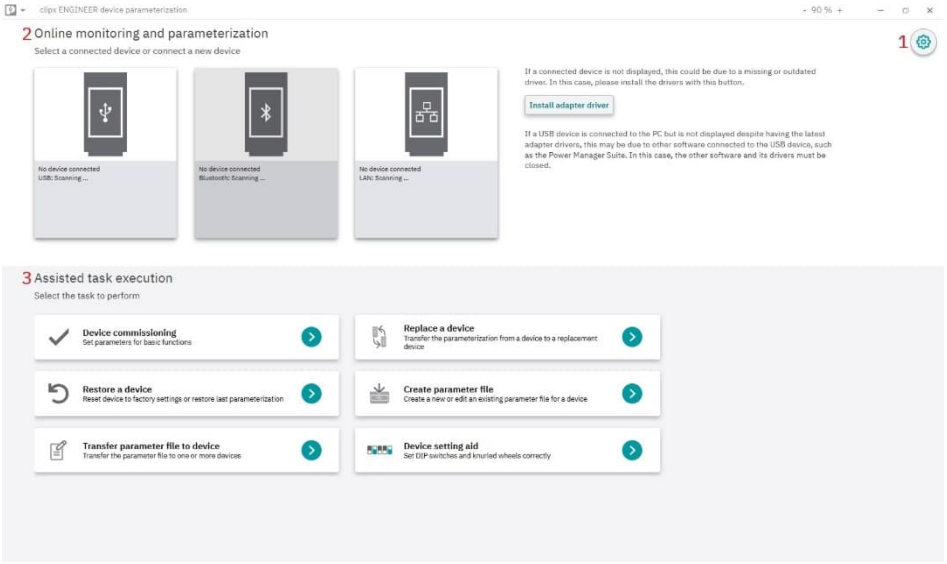
1. ソフトウェアを PC にダウンロードします。
2. *.exe ファイルからインストールを開始します。
3. インストールウィザードの指示に従ってください。

4 ソフトウェアのユーザーインターフェースの説明

4.1 スタート画面

clipx ENGINEER device parameterization ソフトウェアのスタート画面は、以下の通りです。

図 4-1 スタート画面



1 設定
- 言語
- シミュレーション

設定で言語を選択し、パラメータ化のシミュレーションを行うために存在しないデバイスを選択します。

2 オンライン監視とパラメータ設定

この領域には、接続されているデバイス、またはシミュレーション用に選択されたデバイスが表示されます。デバイスのパラメータ設定を開始するには、そのデバイスを選択します。

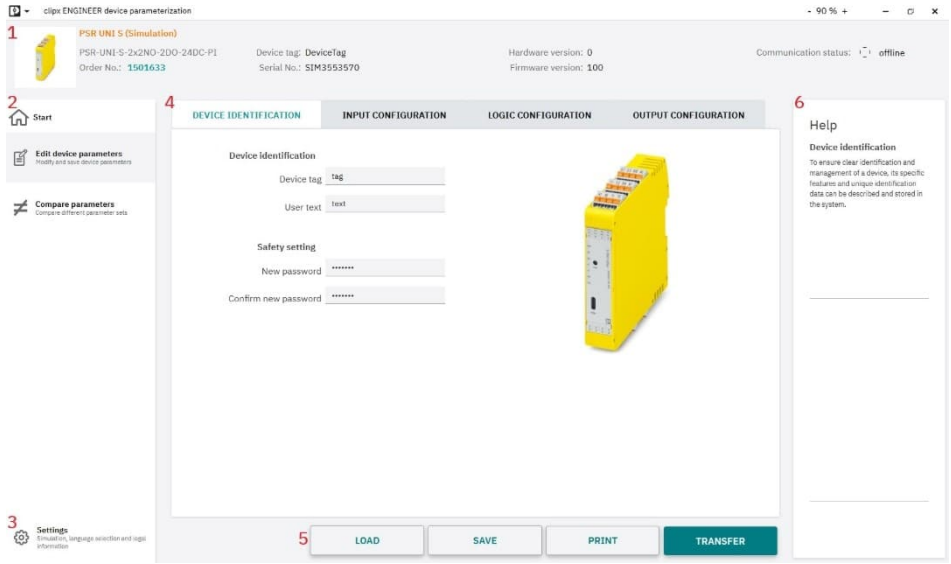
3 タスク実行支援

ソフトウェアのオプションのヘルプ機能は、該当するタスクの手順を案内します。

4.2 オンライン監視およびパラメータ設定

パラメータ設定を行うデバイスを選択すると、まず図に示すユーザーインターフェースが表示されます。

図 4-2　　オンライン監視とパラメータ設定



1	識別バー	選択したデバイスに関する情報。
2	ナビゲーションエリア	以下の機能が利用可能です： – 開始（スタート画面に戻る） – デバイスパラメータの編集 – パラメータの比較 詳細については、第 5 章を参照してください。
3	設定	設定で言語を選択し、パラメータ設定のシミュレーション用に存在しないパラメータ化のシミュレーション用に、存在しないデバイスを選択します。
4	表示および編集領域	ナビゲーションエリアで選択した機能によって異なります。
5	ボタン	以下の機能が利用可能です： – 既存のパラメータファイルを読み込む – 設定したパラメータを保存 – レポートを印刷 – 設定したパラメータをデバイスに転送する 詳細については、第 5 章を参照してください。
6	ヘルプメニュー	ヘルプメニューは、ソフトウェアを正しく使用しやすくするためのもので、各パラメータとその意味を詳細に説明しています。

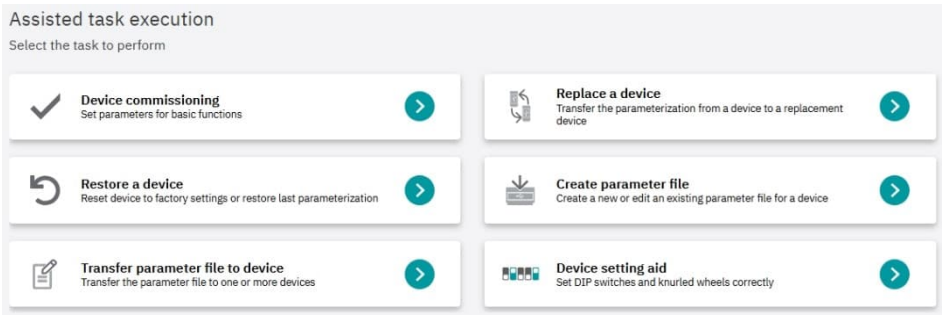
4.3 タスクの実行支援

タスクの実行支援は、当該タスクの手順をガイドする、本ソフトウェアのオプションのヘルプ機能です。

27 ページの「PSR-UNI-S でのタスク実行支援」も参照してください。

タスク実行の支援を開始するには、対応するボタンをクリックし、ソフトウェアの指示に従ってください。

図 4-3 タスク実行の支援



デバイスの試運転 このタスクでは、基本機能のパラメータ設定とデバイスの起動手順を説明します。

デバイスの交換 このタスクは、あるデバイスから別のデバイスへパラメータ設定を転送します。 このタスクは PSR-UNI-S デバイスには適用されません。

デバイスの復元 このタスクを実行すると、デバイスがデフォルト設定にリセットされるか、最後に設定されたパラメータが復元されます。

パラメータファイルの作成 このタスクは、デバイス用の新しいパラメータファイルを作成したり、既存のパラメータファイルを修正したりするのに役立ちます。

パラメータファイルをデバイスに転送 このタスクは、パラメータファイルを 1 つまたは複数のデバイスに転送します。

デバイス設定補助ツール このタスクは、お使いのデバイスに DIP スイッチやローレット加工されたホイールが搭載されている場合、それらの設定を行うのに役立ちます。

5 PSR-UNI-S のパラメータ設定

5.1 注意事項および準備

警告：設定ミスによる危険
パラメータ設定が不正確だと、機械やシステムが危険な状態になる恐れがあります。

- 初回起動時および変更を行うたびに、パラメータ設定を検証してください。

注：パラメータ間の依存関係
パラメータ間の依存関係により、すべてのパラメータを常に編集または選択できるとは限りません。利用可能なオプションのみが表示されます。パラメータを変更できない場合は、それがプリセットされており、変更することはできません。

- 転送を行う**前に、すべての**パラメータ設定ウィンドウで設定されたパラメータを確認してください。

各デバイスのオンラインデータシートの「**パラメータ設定中の LED 表示**」のセクションを参照してください。

6 ページの「PSR-UNI-S 製品のオンラインデータシート」を参照してください。

デバイスの**パラメータ設定可能な機能の一覧表**については、各デバイスのオンラインデータシートを参照してください。

6 ページの「PSR-UNI-S 製品のオンラインデータシート」を参照してください。

準備

実際のデバイス

実機をパラメータ設定する場合は、パラメータ設定のために以下の準備を行ってください。

1. 機械の危険区域に人がいないこと。
2. セーフティリレーモジュールが仕様に従って接続されていること。
3. セーフティリレーモジュール（A1/A2）への電源がオンになっていること。
4. セルフテストがエラーなく完了し、PWR LED が緑色になっていること。
5. パラメータ設定を開始する前に、センサ回路を安全状態に設定してください。
6. 13 ページの「デバイスを PC に接続する」に進んでください。

シミュレーション

パラメータ設定の準備のためにデバイスをシミュレーションする場合は、14 ページの「デバイスのシミュレーション」を参照してください。

5.2 デバイスを PC に接続

USB インターフェース

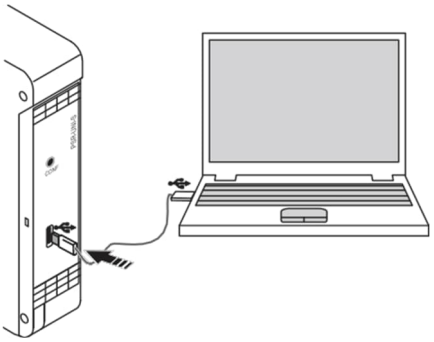
USB インターフェースは、セーフティリレーモジュールとパラメータ設定ソフトウェア間の通信に使用されます。

注：静電気放電

静電気放電は、コンポーネントを損傷または破壊するおそれがあります。本装置を取り扱う際は、EN 61340-5-1 および IEC 61340-5-1 に準拠した、静電気放電（ESD）に対する必要な安全対策を遵守してください。

このインターフェースは、標準的な USB-C ケーブルに対応しています。USB インターフェースは、PC への常時接続を目的とした**ものではありません**。

図 5-1　デバイスを PC に接続する



1. PC でパラメータ設定ソフトウェアを開きます。
2. 適切な接続ケーブルを使用して、セーフティリレーモジュールを PC に接続します。

↪ USB 接続が確立されると、デバイスはセーフ状態になり、パラメータ設定の準備が整います。

↪ デバイスは「Online monitoring and parameterization」エリアに表示され、そこで選択することができます。

A1/A2 に電源が接続されている場合のみ、デバイスが表示されます。

3. デバイスのパラメータ設定を続行してください。

15 ページの「デバイスパラメータの編集」を参照してください。

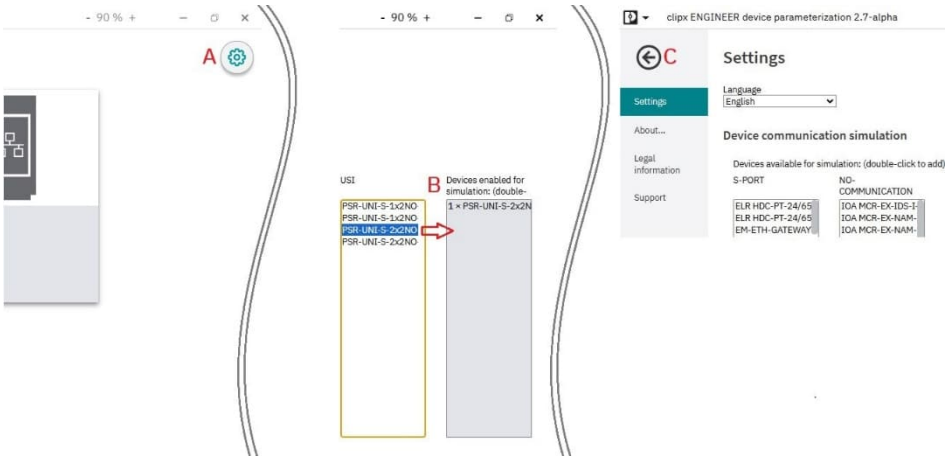
5.3 デバイスのシミュレーション

パラメータ化のシミュレーション

シミュレーションを使用すると、実在しないデバイスのパラメータを完全に準備し、設定することができます。つまり、物理的なハードウェアを使用せずに、必要な設定を事前に作成できるということです。実際のデバイスが利用可能になり次第、事前に作成したパラメータファイルをソフトウェアにアップロードし、デバイスに転送することができます。

シミュレーションでは、パラメータ設定のみがシミュレートされます。実際のデバイス自体の動作はシミュレート**されません。**

図 5-2　デバイスのシミュレーション



1. PC でパラメータ設定ソフトウェアを開きます。
2. 歯車アイコン（A）から設定を開きます。
   または、左上隅にあるフエニックス・コンタクトのロゴから設定を開きます。

↪ 利用可能なすべてのデバイスとその通信プロパティの概要が表形式で表示されます。

3. 「シミュレーション可能なデバイス」の選択欄（B）で、目的のデバイスをダブルクリックして選択します。
4. 矢印アイコンを使用して、スタート画面（C）に戻ります。

↪ デバイスは「Online monitoring and parameterization」エリアに表示され、そこで選択することができます。

5. デバイスのパラメータ設定に進みます。
   15 ページの「デバイスパラメータの編集」を参照してください。

5.4 デバイスパラメータの編集

警告：誤った設定による危険
プリセットパラメータを変更すると、セーフティリレーモジュールの安全特性および応答時間に影響が出ます。

パラメータ設定を誤ると、機械やシステムが危険な状態になるおそれがあります。

- 初回起動時、および変更を行うたびに、パラメータ設定を検証してください。
- パラメータ設定を編集する前に、製品固有のオンラインドキュメントをお読みください。6 ページの「ドキュメント」を参照してください。

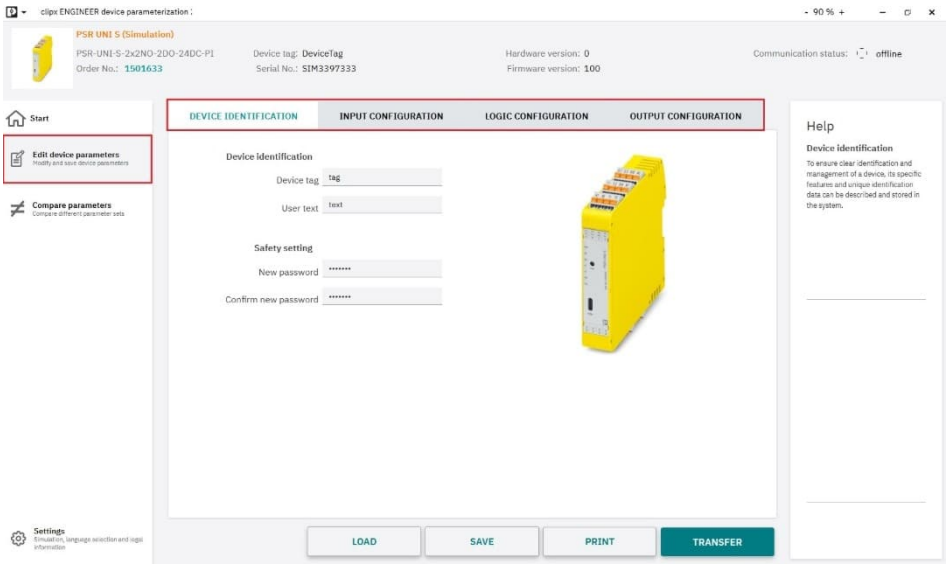
1. PC でパラメータ設定ソフトウェアを開きます。

↪ スタート画面が開きます。

2. 「Online monitoring and parameterization」エリアで、接続されたデバイスまたはシミュレートされたデバイスを選択します。

↪ エディタ領域を含む「Edit device parameters」ユーザーインターフェースが開きます。

図 5-3　デバイスパラメータの編集

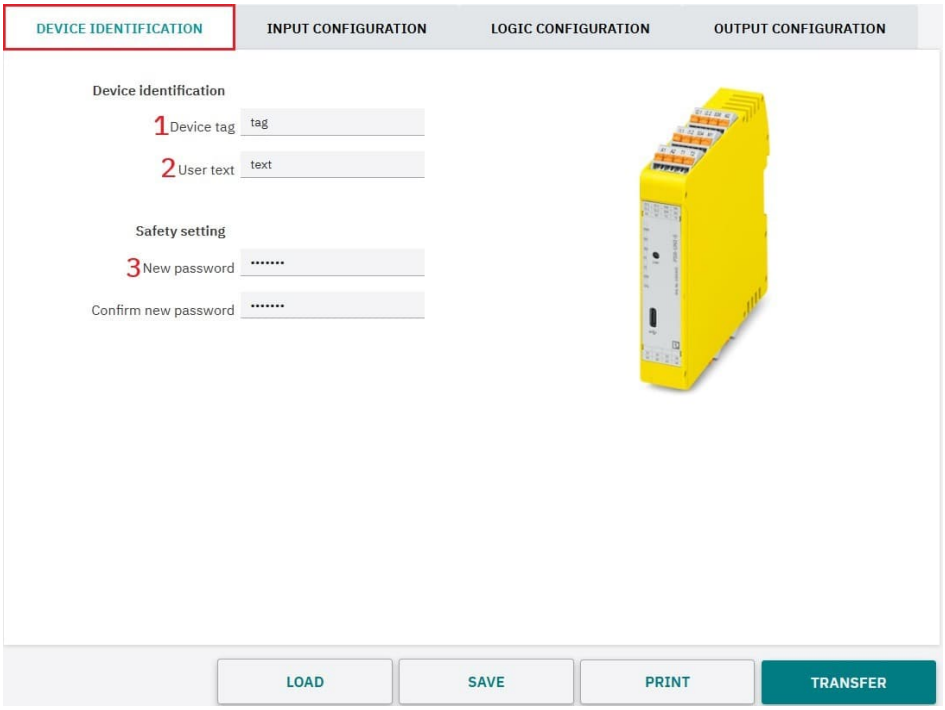


3. 各パラメータ設定ウィンドウで、アプリケーションパラメータを設定します。
   以下の章をガイドとしてご利用ください。

5.4.1 デバイスの識別と安全設定

「Device identification」パラメータ設定ウィンドウでは、関連するデバイス固有のデータを入力し、個別のデバイスパスワードを使用して、セーフティリレーモジュールを不正アクセスから保護します。

図 5-4　デバイス識別および安全設定



	機能	説明	保存場所
1	機器識別	デバイス設計	デバイス内
2	ユーザーテキスト	自由に定義可能なテキストフィールド	デバイス内
3	パスワード	個別のデバイスパスワード	デバイス内

デバイスパスワード

個別のデバイスパスワードを設定するには、以下の手順に従ってください：

1. 「New password」フィールドに新しいパスワードを入力します。
   パスワードの要件：4 文字以上、8 文字以下、ASCII 文字のみ
2. 「Confirm new password」フィールドにパスワードを入力して確認してください。
3. デバイスのパラメータ設定に進みます。
4. 設定が完了したら、「Transfer」ボタンをクリックします。
5. 古いパスワードを入力し、「OK」をクリックして確認します。

↪ 新しいパスワードはデバイスに保存されます。

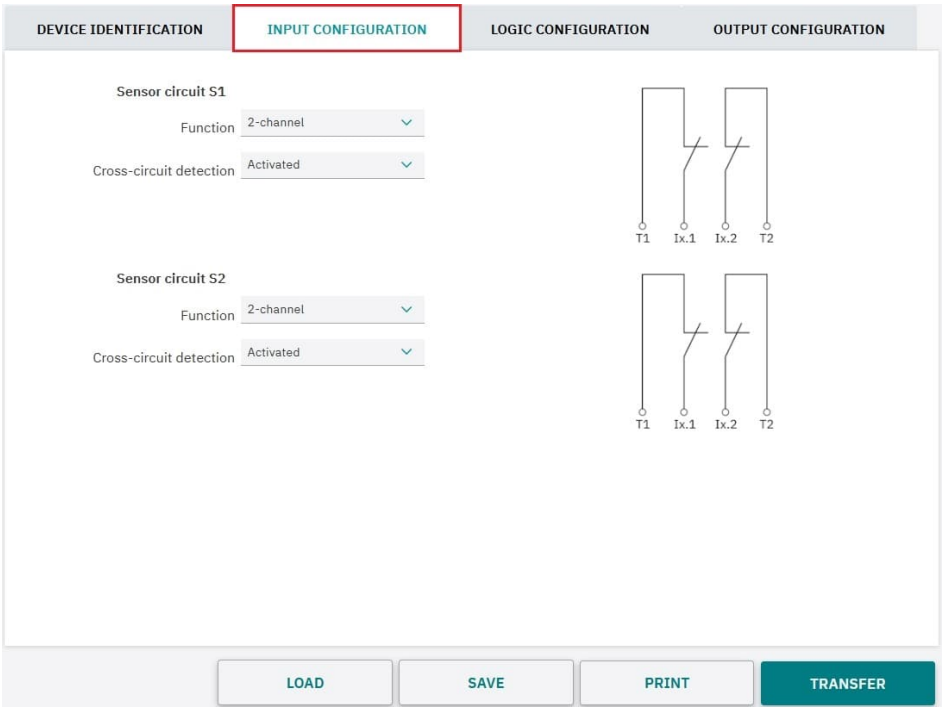
パスワードを変更するたびに、転送中に新しいパスワードを確認するため、一度**古い**パスワードを入力する必要があります。**最初の**転送では、**デフォルトパスワード「psrunis」**となります。

新しいパスワードは、次回の転送処理で有効になります。

5.4.2 入力設定

「Input configuration」パラメータ設定ウィンドウでは、センサ回路の機能を決定します。

図 5-5　入力設定



1. センサ回路の「Function」ドロップダウンメニューを開きます。
設定可能な信号発生器が表示されます。
2. 信号発生器を選択します。
選択した信号発生器の機能図が表示されます。
3. 「Cross-circuit detection」ドロップダウンメニューを開きます。
設定可能な機能が表示されます。
4. クロス回路検出について、「**Activated**」または「**Deactivated**」を選択します。

クロス回路検出の設定オプションは信号発生器によって異なり、一部の信号発生器ではすでにプリセットされています。

信号発生器

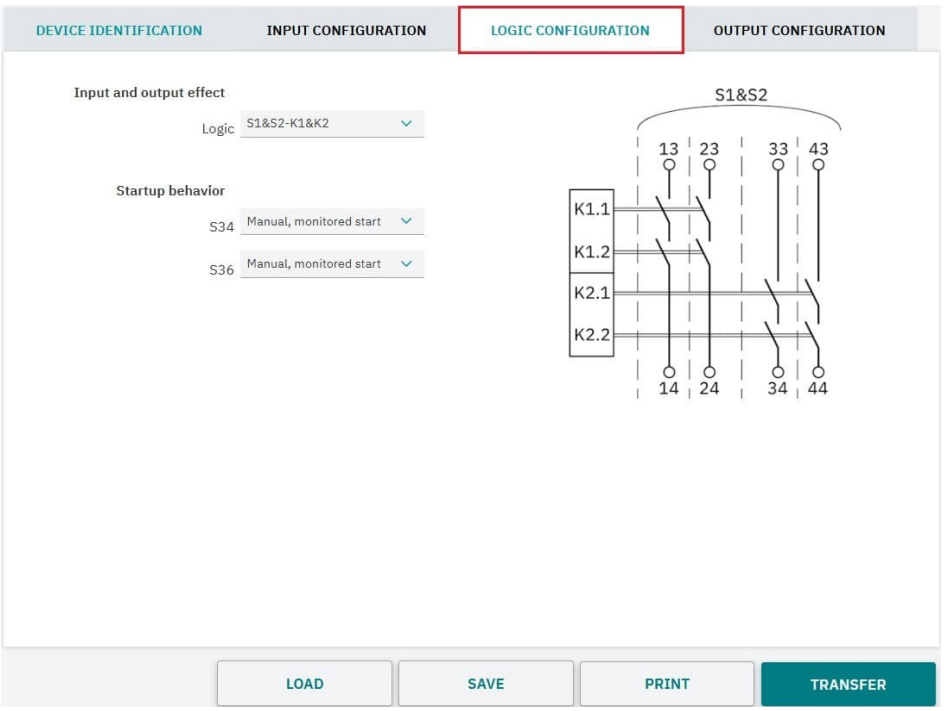
以下のセーフ信号発生器が使用可能です：

- 2 チャネルセンサ
- 1 チャネルセンサ
- OSSD センサ
- 安全マットセンサ
- 非等価センサ
- 同期作動監視機能付き 2 チャネルセンサ
- Type IIIC 両手操作

5.4.3 安全回路の構成

「Logic configuration」パラメータ設定ウィンドウでは、センサ回路の安全回路への割り当てと、セーフティリレーモジュールの起動動作を決定します。

図 56　論理構成



ロジック

入力および出力の効果

デバイスに応じて、以下のオプションが利用可能です。

- S1 は K1 に作用し、S1 と S2 は K2 に作用する
- S1 は K1 に作用し、S2 は K2 に作用する
- S1 と S2 が K1 と K2 に作用する
- S1 と S2 が K1 に作用する
- S1 が K1 に作用する

キー:

S1、S2　センサ回路 1、センサ回路 2

K1　安全回路 1（有効電流パス 13/14、23/24）

K2 *)　安全回路 2（有効電流パス 33/34、43/44）

*) PSR-UNI-S-**2x2NO**-2DO-24DC-... のみ

ロジックのパラメータ設定

1. 「Logic」ドロップダウンメニューを開きます。

↪ 設定可能な割り当てが表示されます。

2. 用途に応じて割り当てを選択します。

↪ 機能図が表示されます。

自動または手動での起動

起動動作

起動回路が適切に配線されている場合、関連する安全回路の起動動作については、以下の選択オプションが利用可能です：

- 自動
- 手動、モニタ

キー：

S34 安全回路 1 の起動回路（有効電流パス 13/14、23/24）

S36 *) 安全回路 2 の起動回路（有効電流パス 33/34、43/44）

*) PSR-UNI-S-**2x2NO**-2DO-24DC-... のみ

起動動作のパラメータ設定

1. 起動回路のドロップダウンメニューを開きます。

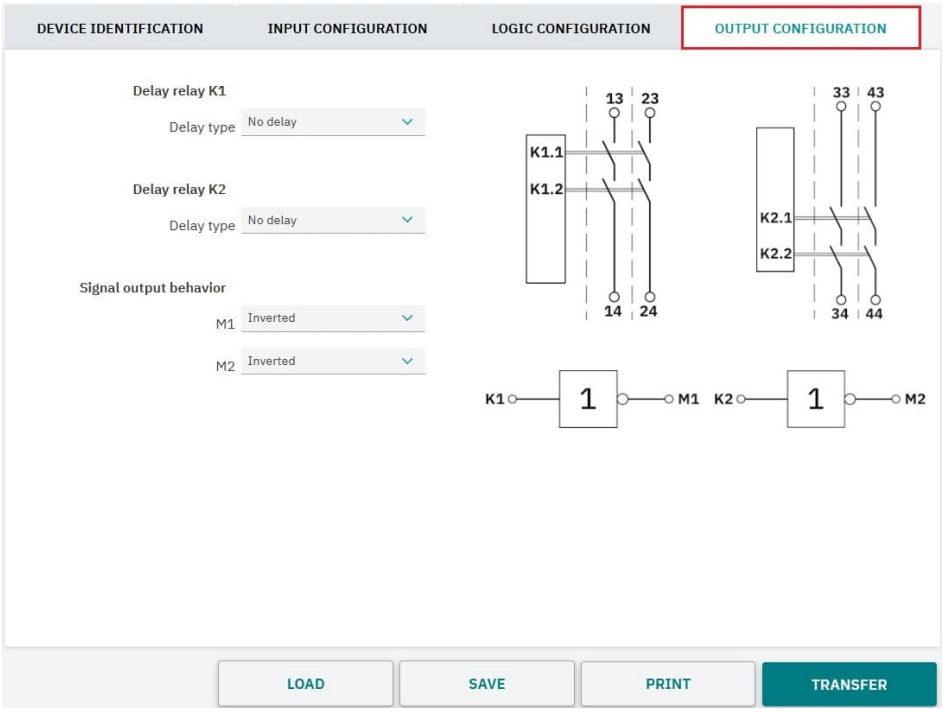
↪ 設定可能なオプションが表示されます。

2. 希望する起動動作を選択します。

5.4.4 出力設定

「Output configuration」パラメータ設定ウィンドウでは、有効電流パスおよび信号出力の動作を決定します。

図 5-7　出力設定



スイッチ ON または スイッチ OFF ディレー

起動動作遅延リレー K1/K2

有効電流パスには、オプションで、スイッチ ON またはスイッチ OFF ディレーを設定することができます。

キー：

ディレーリレー K1　有効電流パス 13/14、23/24 に作用

ディレーリレー K2 *)　有効電流パス 33/34、43/44 に作用

*) PSR-UNI-S-**2x2NO**-2DO-24DC-... のみ

遅延時間のパラメータ設定

入力範囲：0.1 秒～300 秒

1. 「遅延タイプ」ドロップダウンメニューを開きます。

↪ 設定可能な遅延オプションが表示されます。

2. 希望する遅延タイプを選択します。

↪ 遅延時間の入力オプションが表示されます。

3. 空欄に遅延時間を秒単位で入力します（1 秒単位）。

4. ドロップダウンメニューからミリ秒単で選択します（100 ms 単位）。

標準的な遅延時間の計算

注：合計遅延時間 ≠ パラメータ化された遅延時間
合計遅延時間は、選択した機能によって異なり、パラメータ化された遅延時間、デバイスの内部時間、および許容誤差によって決まります。

- 各デバイスのオンラインデータシートの「**標準遅延時間の計算**」のセクションを参照してください。
6 ページの「PSR-UNI-S 製品のオンラインデータシート」を参照してください。

オプションのスイッチ ON またはスイッチ OFF ディレーの使用に関する注意事項

スイッチ OFF ディレー

パラメータ設定可能なスイッチ OFF ディレーにより、セーフティリレーモジュールは EN 60204-1 に準拠した停止カテゴリ 1 に従って動作します。有効電流パスは、設定された遅延時間が経過して初めて開放されます。

注：即時停止による物的損害
セーフティリレーモジュールは、エラーのない動作中にのみ停止カテゴリ 1 を保証します。電源電圧が失われた場合、または内部エラーが発生した場合、デバイスは停止カテゴリ 0 に従って動作します。

- エラー発生時にも停止カテゴリ 1 を遵守しなければならない用途には、本デバイスを使用しないでください。

スイッチ ON ディレー

スイッチ ON ディレーがパラメータ設定されている場合、設定された遅延時間が経過した後、有効電流パスが閉じられます。

信号出力の動作

セーフティリレーモジュールの信号出力は、安全回路に割り当てられています

– **M1～K1**（有効電流パス 13/14、23/24）
– **M2***) **～K2**（有効電流パス 33/34、43/44）

*) PSR-UNI-S-**2x2NO**-2DO-24DC-... のみ

信号出力の反転／非反転

信号出力の動作は、次のようにパラメータ設定できます：

– **反転**：関連する安全回路が開放状態のとき、信号出力は 24 V に切り替わります。
– **非反転**：関連する安全回路が開放されると、信号出力は 0 V に切り替わります。

信号出力の動作のパラメータ設定

1. 信号出力のドロップダウンメニューを開きます。
↪ 設定可能なオプションが表示されます。
2. 希望する動作を選択します。

警告：誤った配線によるセーフティ機能の喪失
信号出力は安全関連ではありません。

- 信号出力を安全出力として使用**しないで**ください。

5.5 デバイスパラメータの転送

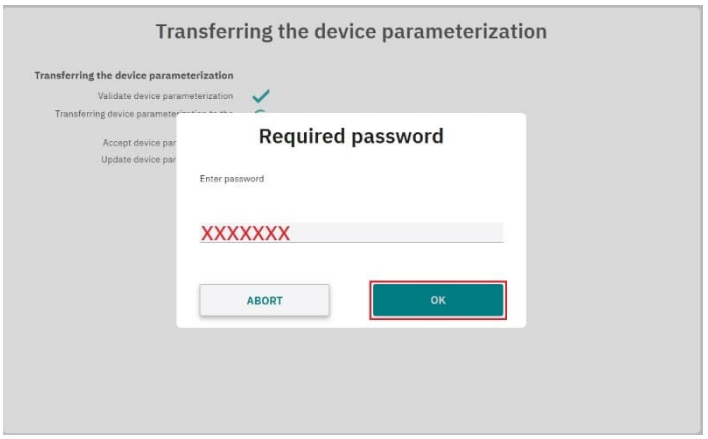
デバイスパラメータの編集が完了したら、それらをセーフティリレーモジュールに転送します。

図 5-8　デバイスパラメータの転送

1. 「Transfer」ボタンをクリックします。

↪ 「Required password」ウィンドウが表示されます。

図 5-9　パスワードの入力

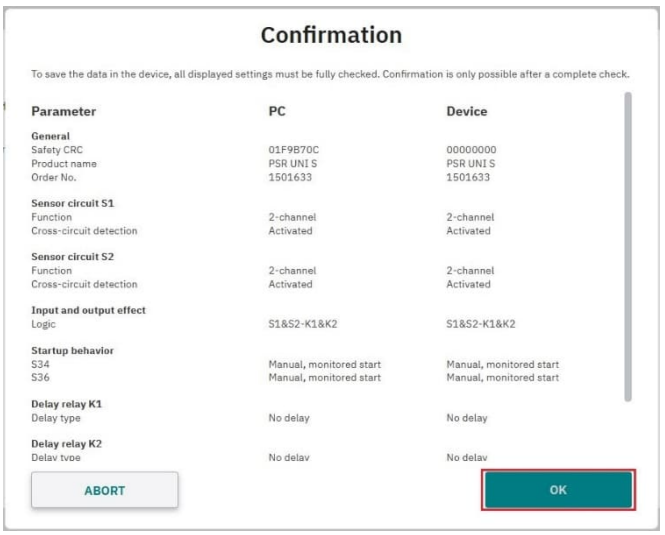


2. パスワードを入力し、「OK」をクリックして確認します。

↪ 値が転送されます。

↪ パラメータ設定ソフトウェアに新しいウィンドウが開き、ソフトウェアのパラメータとデバイスのパラメータが比較されます。

図 5-10　値の確認



3. これらのパラメータを比較し、選択したパラメータがアプリケーションに適していることを確認してください。

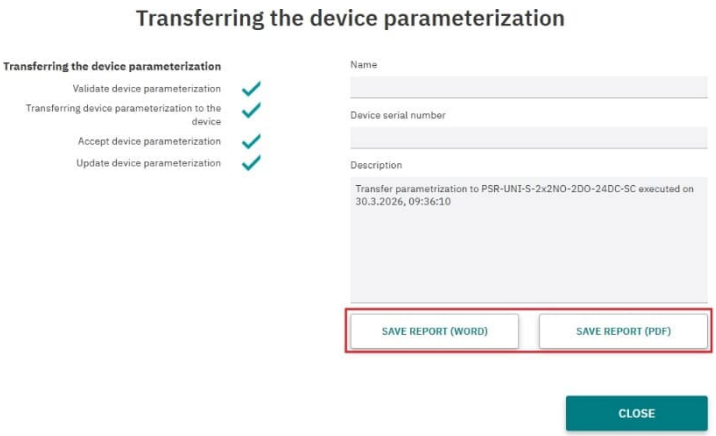
4. パラメータの一覧を最後までスクロールし、「OK」で確定します。
   最後までスクロールして初めて確認が可能です。

注：同一ではないパラメータ
確認ボタンがグレーアウトしている（クリックできない）場合、ソフトウェアとデバイスに表示されているパラメータが一致**していません**。
- 転送をキャンセルし、この手順をやり直ししてください。

レポートの保存

5. レポートを保存し、プロジェクトディレクトリに保存します。

図 5-11　レポートの保存

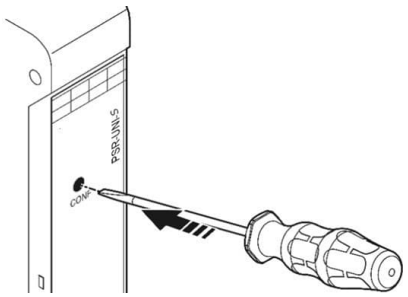


USB 接続を解除し、CONF ボタンを押す

6. USB 接続を解除します。

7. CONF ボタンを 2 秒～5 秒間押します。
↪ デバイスは新しいパラメータを適用します。

図 5-12　CONF ボタンを押す



警告：感電の危険
EN 60900 に準拠した VDE 絶縁ドライバを使用して、CONF ボタンを押してください。

データを確定しない場合、転送されたデータは有効になりません。セーフティリレーモジュールは**非アクティブ**のままとなります。

検証

8. 関連する起動操作を使用して、パラメータ設定された機能を有効にします。
   これらは、各デバイスのオンラインデータシートの「起動」セクションに記載されています。6 ページの「PSR-UNI-S 製品のオンラインデータシート」を参照してください。

5.6 プロジェクトとレポートの保存

デバイスパラメータの編集が完了したら、プロジェクトを保存してください。必要に応じて、レポートを保存または印刷することができます。これを行うには、「Save」または「Print」ボタンを使用します

図 5-13　プロジェクトとレポートの保存

注：データの消失
本ソフトウェアは、プロジェクトを自動的に保存しません。

- データが失われる恐れがあります。プロジェクトはユーザー自身で保存する必要があります。

シミュレーションされたパラメータ設定の保存

「Save」または「Print」ボタンを使用して、シミュレーションによって作成されたパラメータ設定を保存することもできます。

5.7 パラメータの比較

セーフティリレーモジュールに保存されているパラメータ設定を PC に読み込み、ソフトウェア内の現在のパラメータと比較することができます。これにより、パラメータ設定ソフトウェアでパラメータを表示、調整し、再度ダウンロードすることができます。

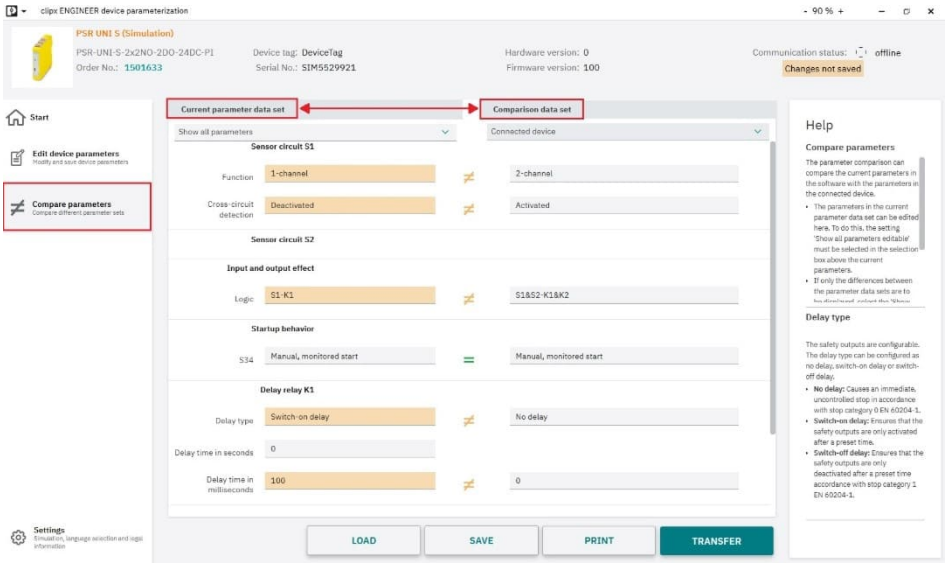
パラメータ設定をソフトウェアに読み込む際に、パスワードを入力する必要はありません。

1. ナビゲーションエリアで「Compare parameters」機能を選択します。

↪ ソフトウェア内のパラメータデータセット（「Current parameter data set」）と、接続されたデバイスまたはシミュレートされたデバイスからのパラメータデータセット（「Comparison data set」）が表示されます。

↪ 同一または異なるパラメータは、「=」または「≠」の記号で表示されます。

図 5-14　パラメータの比較



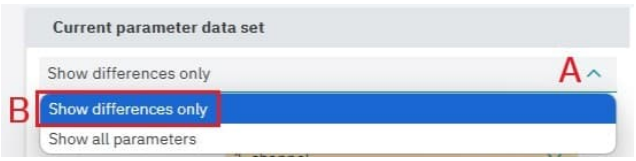
違いの表示

異なるパラメータのみを表示したい場合は、次のように操作してください。

1. 「Current parameter data set」(A) の下のドロップダウンメニューを開きます。

↪ 設定オプションが表示されます。

図 5-15　差異の表示



2. 「Show differences only」(B) を選択します。

↪ 差異のあるパラメータが表示されます。

5.8 既存のパラメータファイルの読み込み

既存のパラメータファイルをソフトウェアに読み込むには、「Load」ボタンを使用します。

図 5-16　パラメータファイルの読み込み

これにより、パラメータ化ソフトウェアでパラメータを表示、調整し、再度保存するか、セーフティリレーモジュールにダウンロードすることができます。

5.9 パラメータ設定後のエラーメッセージのトラブルシューティング

パラメータ設定後にエラーが表示された場合は、以下の手順に従ってください。

1. 正しいセンサが接続されていることを確認してください。
2. 接続されていない場合は、正しいセンサを接続してください。

以前にセンサ回路でエラーが発生していた場合：

1. センサをセーフ状態に設定してください。
2. パワーダウンリセットを実行してください。

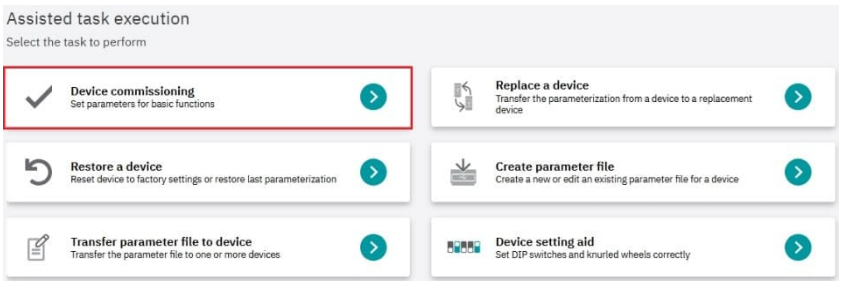
6 PSR-UNI-S でのタスク実行支援

アシスト機能は、対象となるタスクの手順をガイドする、ソフトウェアのオプション機能です。

6.1 デバイスの試運転

「Device commissioning」タスクを使用して、接続されたデバイスまたはシミュレートされたデバイスのデバイスパラメータを設定します。

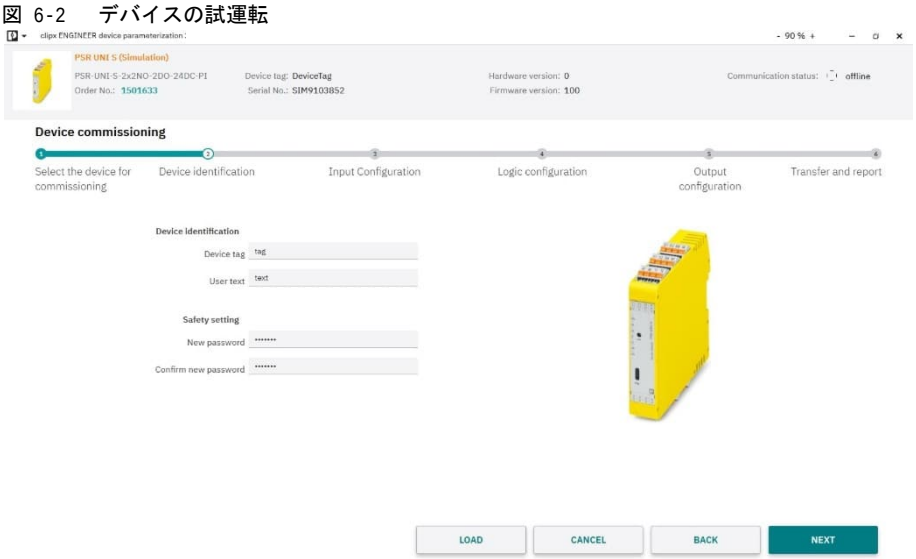
図 6-1　タスク：デバイスの試運転



1. 「Device commissioning」タスクを選択します。
2. デバイスを PC に接続し、デバイスを選択します。
   13 ページの「デバイスを PC に接続する」を参照してください。
   または：
   シミュレーション対象のデバイスを選択します。
   14 ページの「デバイスのシミュレーション」を参照してください。

↪ さまざまなパラメータ設定手順を含むエディタ領域が表示されます。

図 6-2　デバイスの試運転



3. 指定されたパラメータ設定手順に従ってください。

   個々のパラメータ設定手順の詳細については、12 ページの「PSR-UNI-S のパラメータ設定」の各サブセクションを参照してください。

4. デバイスパラメータをデバイスに転送します。

   22 ページの「デバイスパラメータの転送」を参照してください。

5. 転送処理が完了したら、「Finish」ボタンをクリックします。

検証

6. 関連する起動手順を使用して、パラメータ設定された機能を検証します。

   これらは、各デバイスのオンラインデータシートの「起動」セクションに記載されています。6 ページの「PSR-UNI-S 製品のオンラインデータシート」を参照してください。

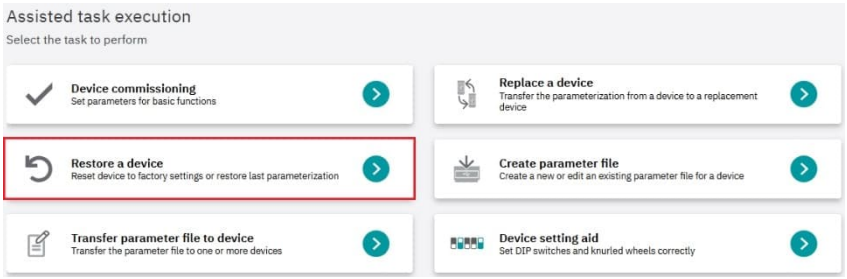
6.2 デバイスの復元

「Restore a device」タスクは、デバイスをデフォルト設定にリセットするか、最後のパラメータ設定を復元します。

この処理中に、デバイスのパスワードもデフォルト設定にリセットされます。**デフォルトのパスワード**：psrunis

デフォルト設定を転送するには、まず有効なパスワードを入力する必要があります。

図 6-3　タスク：デバイスの復元

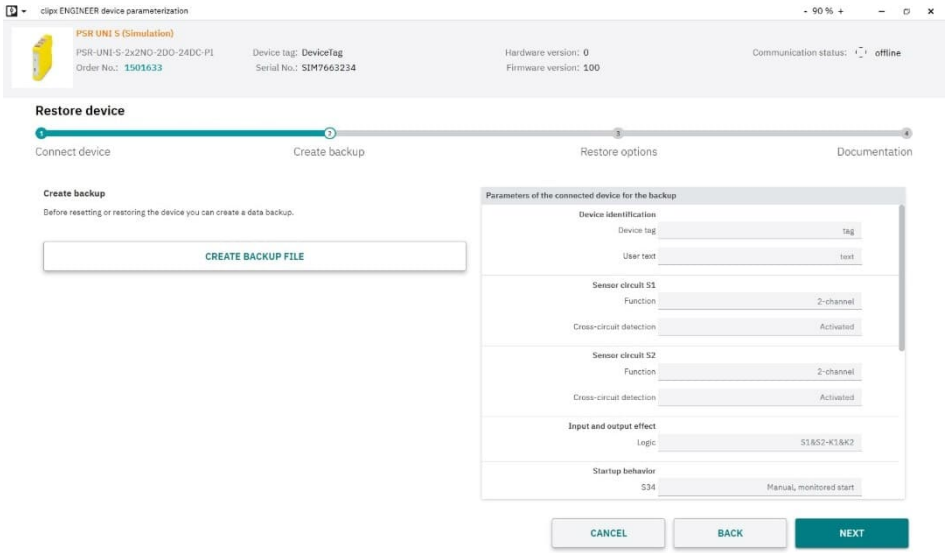


1. 「Restore a device」タスクを選択します。
2. デバイスを PC に接続し、デバイスを選択します。

   13 ページの「デバイスを PC に接続する」を参照してください。

↪ 各手順が記載されたエディタ領域が表示されます。

図 6-4　デバイスの復元



データのバックアップ

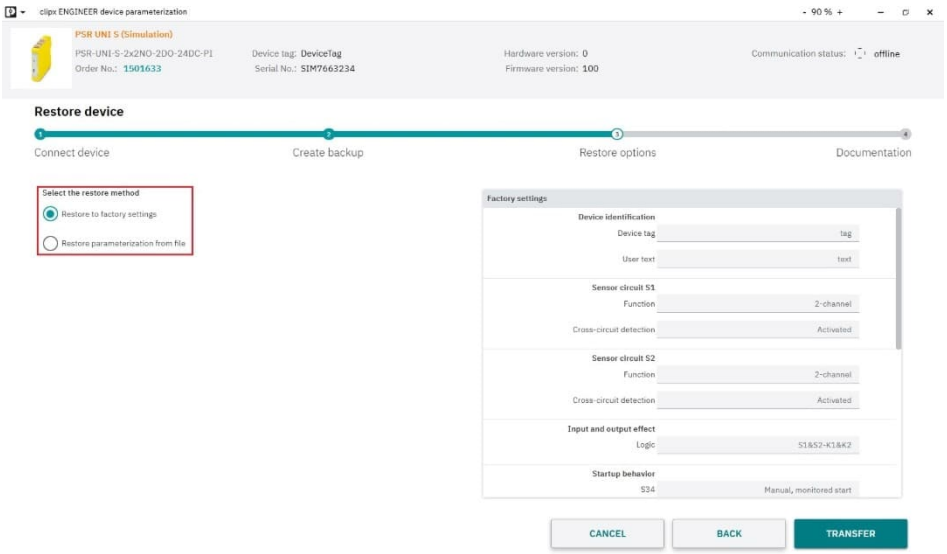
デバイスをリセットまたは復元**する前に**、データのバックアップを作成してください。

3. 「Create backup file」ボタンをクリックします。
4. 接続されたデバイスのパラメータを確認します。
5. プロジェクトディレクトリにファイルを保存します。
6. 「Next」ボタンをクリックします。

復元オプション

7. 「Restore to factory settings」と「Restore parameterization from file」のいずれかを選択できます。

図 6-5　デバイスの復元 - 復元オプション



工場出荷時の設定に復元

a) 「Restore to factory settings」を選択します。

b) デフォルト設定のパラメータを確認します。

c) ステップ 8 に進みます。

ファイルからのパラメータ設定の復元

a) 「Restore parameterization from file」を選択します。

↪ アップロードエリアが表示されます。

b) 既存のパラメータファイルを選択します。

↪ ファイル内のパラメータが表示されます。

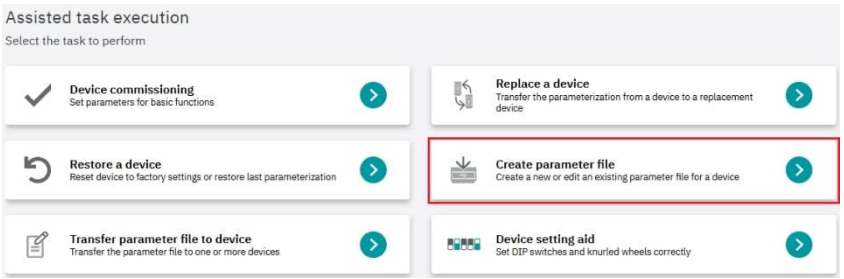
c) ステップ 8 に進みます。

8. デバイスパラメータをデバイスに転送します。
22 ページの「デバイスパラメータの転送」を参照してください。
9. 転送処理が完了したら、「Finish」ボタンをクリックします。

6.3 パラメータファイルの作成

「Create parameter file」タスクを使用して、セーフティリレーモジュール用の新しいパラメータファイルを作成するか、既存のファイルを編集します。

図 6-6　タスク：パラメータファイルの作成

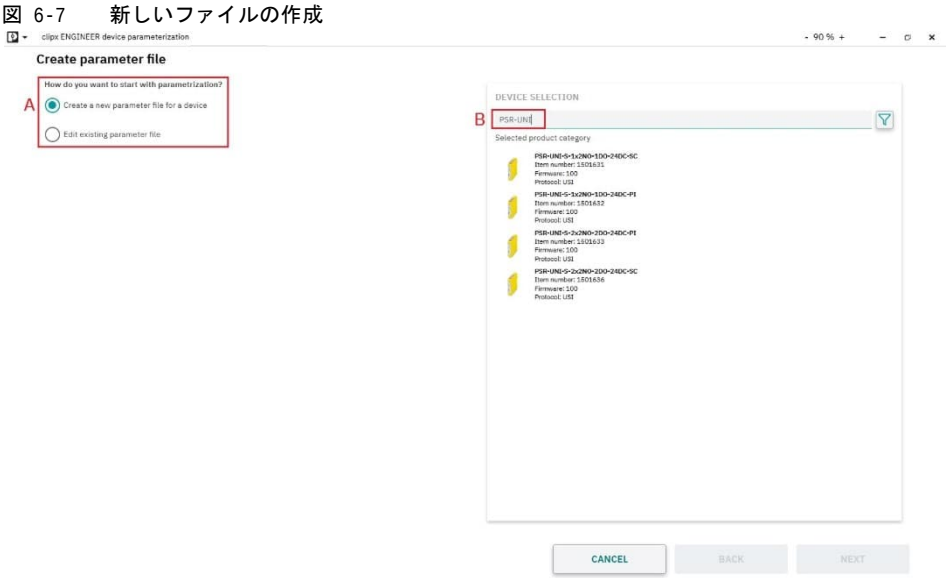


1. 「Create parameter file」タスクを選択します。

「Create a new parameter file for a device」と「Edit existing parameter file」のどちらかを選択できます。

新しいファイルの作成

図 6-7　新しいファイルの作成



a) 「Edit existing parameter file」 (A) を選択します。

b) 検索フィールド (B) にデバイス名を入力します。

↪ デバイスが表示されます。

c) デバイスを選択します。

↪ 各種パラメータ設定ウィンドウのあるエディタ領域が開きます。

d) ステップ 2 に進みます。

既存のファイルの編集

図 6-8　既存のファイルの編集

a) 「Edit existing parameter file」 (A) を選択します。

↪ アップロードエリアが表示されます。

b) 既存のパラメータファイルを選択します (B)。

↪ ファイル内のパラメータが表示されます。

c) ステップ 2 に進みます。

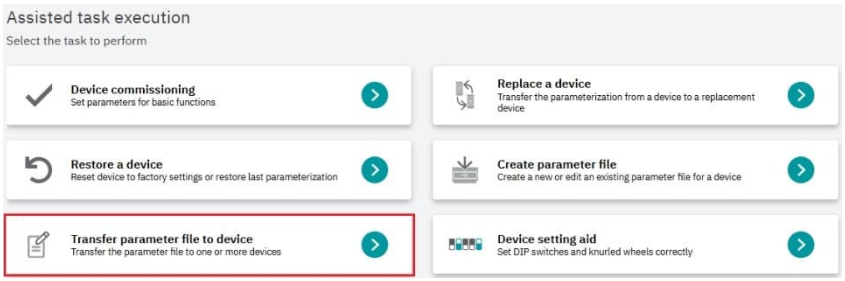
パラメータの編集

2. 新規または既存のファイルのパラメータを編集します。
15 ページの「デバイスパラメータの編集」を参照してください。
3. 最後のウィンドウ「Create parameter file」で、ファイル内のパラメータを確認します。
4. パラメータの確認が完了したら、「Save parameter file」でプロジェクトディレクトリにファイルを保存します。
5. 「Finish」ボタンをクリックします。

6.4 パラメータファイルをデバイスに転送

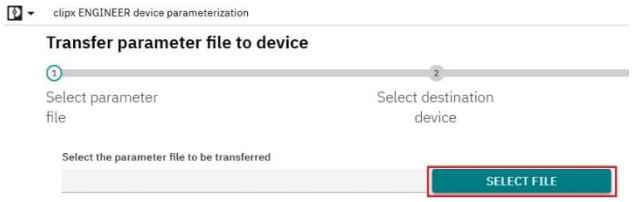
「Transfer parameter file to device」タスクを使用して、1 つまたは複数のデバイスに（順番に）パラメータファイルを転送します。

図 6-9　タスク：パラメータファイルをデバイスに転送



1. 「Transfer parameter file to device」タスクを選択します。

図 6-10　パラメータファイルをデバイスに転送



2. 既存のパラメータファイルを選択します。
   ファイル内のパラメータが表示されます。
3. 「Next」ボタンをクリックします。
4. デバイスを PC に接続し、デバイスを選択します。
   13 ページの「デバイスを PC に接続する」を参照してください。
5. 「Next」ボタンをクリックします。
6. 「Save parameterization」をクリックします。
7. ファイルをプロジェクトディレクトリに保存します。
8. デバイスパラメータをデバイスに転送します。
   22 ページの「デバイスパラメータの転送」を参照してください。
9. 転送処理が完了したら、「Finish」ボタンをクリックします。

検証

10. 該当する起動設定を使用して、パラメータ化された関数の検証を行います。
    これらは、各デバイスのオンラインデータシートの「起動」セクションに記載されています。6 ページの「PSR-UNI-S 製品のオンラインデータシート」を参照してください。

A 改訂履歴

改訂	日付	目次	ページ
00	2026-04-20	初版 英語文書	-

以下の注意事項をご確認ください

技術文書に関する一般利用規約

フエニックス・コンタクトは、ユーザーにとって合理的な範囲において、独自の判断により、事前の通知なしに、技術文書および技術文書に記載された製品を変更、修正、および／または改良する権利を留保します。技術的進歩を目的とする変更についても同様とします。

技術文書（特にユーザーマニュアル）の受領は、製品および／または技術文書の変更に関する情報を提供するというフエニックス・コンタクト側のさらなる義務を構成するものではありません。お客様は、特に適用される規格および規制の遵守に関して、特定の用途における製品の適合性および意図された使用目的を確認する責任を負います。文書データ内で提供されるすべての情報は、明示的、黙示的、または暗黙的に想定されるかを問わず、いかなる保証も伴わずに提供されます。

一般に、特に保証責任に関して、フエニックス・コンタクトの現行の一般取引条件の規定が排他的に適用されます。

本マニュアルおよび本マニュアルに含まれるすべての図版は、著作権により保護されています。本ドキュメントの内容の変更、またはその抜粋の公開は禁止されています。

フエニックス・コンタクトは、本書で使用されているフエニックス・コンタクト 製品の製品識別番号について、自社の知的財産権を登録する権利を留保します。第三者による当該知的財産権の登録は禁止されています。

その他の製品識別情報は、その旨が明示されていない場合でも、法的保護の対象となる場合があります。

お問い合わせ方法

インターネット

フエニックス・コンタクトの製品情報および当社の利用規約は、以下のインターネットサイトでご覧いただけます。 phoenixcontact.com

必ず最新の資料をご利用ください。資料は以下からダウンロードできます：

phoenixcontact.com/products

現地法人

ドキュメントを参照しても解決できない問題がある場合は、お近くのフエニックス・コンタクトの現地法人までお問い合わせください。

各子会社の連絡先情報は、phoenixcontact.com でご確認いただけます。

発行元

Phoenix Contact GmbH & Co. KG
Flachsmarktstraße 8
32825 Blomberg
GERMANY

Phoenix Contact Development and Manufacturing, Inc.
586 Fulling Mill Road
Middletown, PA 17057
USA

マニュアルの内容やレイアウトの改善に関するご提案やご意見がございましたら、以下までお寄せください。 tecdoc@phoenixcontact.com